

第1回CSJ化学フェスタ学生ポスターセッション 活発な討論に基づく優秀・最優秀ポスター発表者の選出

はじめに

「第1回CSJ化学フェスタ」が延べ約1,300人の参加を得て、11月13日～15日の3日間、早稲田大学で開催された(本誌1月号32ページ参照)。本企画は「化学の寄与を社会に発信すること」及び「産学官の連携を図り、化学技術の発展に寄与すること」を目的としており、最近のトピックスを紹介する講演等が多数行われた。また、これらの企画と並行して「学生ポスターセッション」を実施し、化学を学ぶ学生諸君が日頃の研究成果を発表するとともに、産官学からの参加者とのディスカッションを深める機会を設けた。このセッションでは、合計288件の発表が行われ、レベルの高い白熱した議論がなされた。日本化学会では、今回のポスター発表の中から優れた発表に「最優秀ポスター発表賞」及び「優秀ポスター発表賞」を授与してその成果を称えた。化学会会長からの表彰状を贈るとともに、最優秀ポスター発表賞を受賞した8人には、副賞を贈呈すると共に、ここに皆さんのコメントをまとめた。その詳細を以下に紹介する。

学生ポスターセッション

今回のCSJ化学フェスタは、以前行われていた秋季年会とは異なり、「現代及び近未来における化学の役割」を掘り下げるのが主テーマになっている。このような取り組みは、一般の方々を対象とした無料の公開講座やノーベル賞受賞者・北海道大学名誉教授鈴木章先生の講演等に端的に表れているが、これとは別

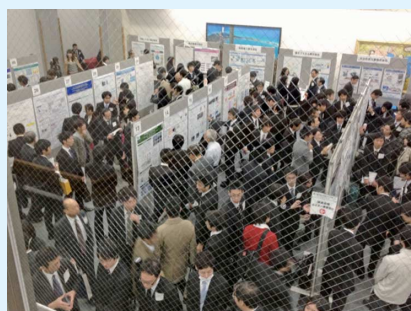


写真1 学生ポスターセッション会場

に「化学系学生と企業との交流」を目的とした「学生ポスターセッション」及び「企業展示ブースとR&Dセッション」を設けて、学生諸君は日頃の研究成果を紹介し、化学企業はその隣で自社の技術、自慢の商品、事業などを紹介できるように会場を設営した。化学企業の研究者が大学における研究を直接に学生諸君から聞く機会は少なく、また化学系の学部・大学院生が企業の研究者から化学企業の技術・商品・事業を直接聞く機会もほとんどないからである。

学生ポスターセッションの第2の特徴としては、日本化学会に所属していない学生の参加を容易にしたことである。春季年会等では、発表は日本化学会会員に限られるが、今回のCSJ化学フェスタでは非会員学生も発表でき、さらに発表をしない学生参加者は無料とした。日本の将来を担う若者の化学会に対する求心力の一助となれば幸いである。

学生ポスター発表

ポスター発表については化学及びその関連分野を8分野に分類して募集したところ、全国から288件の申込みがあった。そこで、全体を8セッションに

分けて11月12日～15日の2日間、小野梓記念館でポスター発表を行った。発表時間は1人1時間とやや短めであったが、非常に活発な議論が展開され、会場はいつも熱気に包まれていた。

今回のポスター発表では、優秀と認められる発表に「優秀ポスター発表賞」及び「最優秀ポスター発表賞」を授与した。その審査基準は、①研究に対して発表者が十分に寄与していること、②質疑応答に優れていること、③独自性が認められ、今後の発展が期待できることの3点であり、企業の研究者を含む多数の審査員によってその評価を行い、厳正な審査の結果「優秀ポスター発表賞」58件、「最優秀ポスター発表賞」8件を選出した。レベルの高い発表が多かったが、受賞者数が限られていたので、惜しくも受賞を逃した優秀な学生もいたことを申し添える。

おわりに

今回の学生ポスターセッションは、多数の学生諸君が発表し、さらに参加者との白熱した議論が展開されたことから、成功裏に終えることができたと思う。日本化学会では来年、第2回のCSJ化学フェスタを実施する予定であり、本ポスター企画がますます盛り上がることを期待してやまない。最後に、ポスター発表のお世話をいただいたWGの先生方、並びにポスター発表の評価をお願いし、長時間審査していただいた企業・大学関係者の皆様方にお礼申しあげる。

〔伊與田正彦(首都大東京)〕

—— 最優秀賞ポスター発表賞 受賞者コメント ——

浅田直哉 (大阪府立大学大学院工学研究科物質・化学系専攻応用化学分野池田研究室)



今回、記念すべき第1回CSJ化学フェスタで最優秀ポスター賞を受賞することができ、大変光栄に思っています。

ポスター発表では、たくさんの先生や企業の方と議論ができ、有意義な時間を過ごすことができました。ただ、必ずしも有機化学を専攻されている方というわけではなく、専門外の視点からの厳しい指摘もあって、とても新鮮な感じを受けました。

私はあまり人と話すのは得意な方ではないのですが、いつもポスター発表では、自分の考えを自分の言葉で伝えることを大事にしています。簡単で当たり前のことのように思えますが、普段からしっかりと自分で考えて研究を行っていなければいけないことだと思っています。自分の扱う化合物は自分が一番よく知っているのだと自信をもって発表に挑んでいるつもりです。そうすれば自然と楽しく、深いディスカッションができると思っています。

渡辺正登 (京都大学大学院工学研究科材料化学専攻 大塚研究室)



このたびは、第1回CSJ化学フェスタにおいて最優秀ポスター発表賞という名誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。今回私はCSJ化学フェスタに参加したことで、多くの貴重な経験を得ることができました。ノーベル化学賞講演会や企業R&Dセッションなどの魅力的な企画に参加できたことや、専門である分析化学以外の分野の方々の講演や発表が聞けたことなどは、私にとって非常に有意義な体験でした。また、今回のポスター発表では、両隣とのポスターの間隔が非常に近接していたので、私には発表者と質問者との距離がいつもより近く感じられました。そのため至る所で議論や交流が行われ、会場全体が独特な緊張感と熱気に包まれていたという印象が残っています。次回の化学フェスタで発表される学生の皆様にも、様々な分野の研究者の方々と交流し、活発な議論をする場としてぜひ活用していただきたいと思っています。

木下卓巳 (東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻 瀬川研究室)



このたびは、栄えある賞をいただき改めてお礼申し上げます。

色素増感太陽電池とは、化学反応を利用した低コストな太陽電池です。なかでもデバイス性能向上のために色素の励起電子のスピンに着目し研究を行っています。基礎過程からデバイスへの応用までの道程は長く、こうしてご高評をいただいたことは誠に光栄です。これからさらに研究を重ね、研究の魅力をわかりやすく伝えていけたらと思います。

ポスターセッションでは意外にも学生が大勢立ち寄ってくれました。幅広い世代に関心を抱いてもらえうれしいです。

化学フェスタという名のとおり通常の学会とは一味違った催しです。様々な学会に出られている学生の方も、そうでない方も一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

池邊彩子 (東京工業大学大学院理工学研究科応用化学専攻 高橋・田中研究室)



このたび、幸運にも「最優秀ポスター発表賞」を賜ることとなり、大変光栄に思っております。第91春季年会が、私の初の学会発表の場となるはずでしたが、昨年の東日本大震災のため中止となり、紙面の上での発表成立となりました。実質的に、本学会は私にとって、初めての学会発表の場となりました。本学会の運営に携わった先生方に厚くお礼を申し上げます。本会では学部4年次の研究を発表させていただき、現在はそこからさらに発展させた研究を推進しております。ポスター発表は全部で8分野から構成されており、同じ空間で他分野の方々とも気軽にディスカッションができ、大変よい刺激となりました。また、産学官交流ということでしたので、様々な角度から有益なアドバイスをいただきました。ぜひとも、今後の研究生生活の糧にしたいと思います。

石居拓己 (東京大学大学院工学系研究 科応用化学専攻 橋本研究室)



2011年は、日本の様々な研究分野において、大きな転換期にあたった年だと思います。3.11以降、個人的にも“自分の研究をいかにして社会貢献させるか”という思いを強く持つようになりました。研究を社会に発信していくには、様々な方との意見交換が不可欠だと思います。

そのような中で今回のCSJ化学フェスタでの発表は大変有意義なものでした。というのも、普段の学会発表とは違ったメンバーとの間でディスカッションをすることができ、自分としても今まで思いもよらなかったような観点からの意見をいただけたからです。審査に来て下さった先生方も普段は私の発表した内容とは違った分野で研究をなさっている方だと思いますが、そのような中でこうして賞をいただけたことは大変光栄なことであると同時に、初めて自分の研究を聞く人に対してどういう説明が効果的なかを工夫したことを評価していただけたものと考えています。

次の発表をする皆さんには、自分の“身内”に向けた研究発表だけでなく、幅広い人に向けた発表を目指していただきたいと思います。

田中裕明 (筑波大学数理物質科学研究 科化学専攻 関口研究室)



2011年世界化学年記念大会として開催された第1回CSJ化学フェスタは、開催趣旨にあるように産学官で化学に携わる人たちの交流深耕及び社会への情報発信というテーマを掲げていました。特に印象的だった「企業R&Dセッション」では大学と企業の研究に取り組む姿勢の違いやプロジェクト成功体験などを聞くことができ、研究者の方々の実体験に基づくお話は非常に刺激的でした。

また、私のポスター発表内容はケイ素二価化学種シリレンの一電子酸化反応についてでしたが、ケイ素ラジカル化合物の可逆的な酸化還元特性は基礎化学的だけでなく材料科学的にも重要な物性であり、多くの方が興味を持って下さいました。最終的に錯体・有機金属化学の分野における最優秀ポスター発表賞にも選出され、非常に光栄に思うとともにこれからの研究に一層励んでいこうと決意しました。

最後になりますが、このような名誉ある賞と貴重な機会を与えて下さいました日本化学会並びにCSJ化学フェスタ実行委員の皆様へ深く感謝いたします。

多田亜喜良 (東京大学大学院工学系研究 科応用化学専攻 橋本研究室)



今回、このような賞をいただくことができ、大変光栄に思っております。今回の受賞にあたり、指導教官であります橋本和仁教授、但馬敬介准教授をはじめとする、お世話になった多くの方々へ心より感謝いたします。またこの研究は、科学技術振興機構ERATO橋本プロジェクトの支援のもとでなされており、同プロジェクトにもこの場を借りてお礼申し上げます。

今回のCSJ化学フェスタは、産学官の交流による化学の発展が1つのテーマとなっており、それらを軸とした数多くの講演・発表に非常に刺激を受け、私自身、将来化学の発展に貢献したいという気持ちがさらに強くなりました。今回、私どもの研究成果をご評価いただきこのような賞をいただくことができましたが、この結果に甘んじることなくさらに精進し、化学の発展に貢献できる研究をしていきたいと思っております。

元国献也 (東京工業大学大学院総合理 工学研究科 小坂田・竹内研究室)



今回、偶然にも最優秀ポスター発表賞を受賞させていただいたことに対して、非常に驚いています。CSJフェスタを知ったのは毎月送られてくる「化学と工業」にたまたま案内が入っており、会場が早稲田大学と近いこともあって、気軽な気持ちで参加の申し込みをしました。普段、参加している学会とは違った参加者が多く見られ、ポスター発表では自分の専門分野以外の方や企業の方からの質問を受けることができ、非常に刺激的でした。これにより、自分の研究に対してもう一度立ち止まって考える機会を得ることができたと感じています。これも今回の第1回CSJ化学フェスタへの発表の機会を与えて下さり、また日頃から熱心なご指導をして下さっている東京工業大学の小坂田耕太郎教授と竹内大介准教授のおかげです。この場をお借りしまして、心から感謝いたします。